最終回

発想こそ経営の宝
百姓は夢と想像力で時代を拓け

脳業

発想力 Thinking Power

エコファーム・アサノ



海老蔵が飲んだくれて殴られてマスコミは大騒ぎだな。あの歳でこんな事件を起こすってことは、今まで大して痛い目に遭ったことがねえってことよ。子どもだって、火を触ったら熱いってのを覚えるじゃん。それを体験しなかったら、怖さがわからねえもんだから、いい歳になって焚き火に手を突っ込んじゃうのよ。だから子どもには、小さいうちからいろんな痛い目に遭わせておいたほうがいいの。何事もやる前からダメとか危ねえとか言ってねえで、サバイバルさせるような環境にほっぽり出しちまえばいいのよ。

そんで何かの問題にぶつかったら、何がどうダメなのか身をもってわかるじゃん。今の自分には何が足りなくて、何を補えばいいかってこともわかるじゃんよ。でも、やらなきゃそれすらわからねえでしょ。だったらやったほうがプラスじゃん。取り返しがつくならそれでいいのよ。

農業だって、やりたいと思ったことは、まず行動してみないと。だけどそれ以前に、てめえがやりたいことをはっきりと人に言える？　よく嫁がこなくて困ってる農家の話を聞くけど、うちに遊びにくる女の子たちはなんて言ってると思う？「そういう男の人って何をやりたいのかわかんないでしょ」って言うんだよ。何をやりたいのかわからねえ男と結婚したい女なんているわけねえじゃん。ハンサムとか何とか関係ねえの。何のために農業をやってるのか聞かれた時に「俺はこういうのがやりたいんだ！」って言えるかどうかよ。できるできないは別として、夢があることが大事なわけじゃん。それを伝えることができれば「だったらあたしも一緒にやりたい」ってついてくる女の子が現れて「じゃあ結婚すっか」って話にもなるの。そんな夢も希望もなしに、嫁がくるわけねえんだよ。いっそのこと日本は一夫一婦制を廃止して、夢を追いかける男に女の子がいっぱいついてくる社会にすればいい。そうすっと少子化も防げるし、俺は楽しいと思うけどね。

夢ってのは、みんな大それたことを考えないといけねえと思うじゃん。でも、まずは自分が頑張れば実現できる範囲内の夢でいいのよ。それをクリアしたら次の夢を目指したらいいんだから。人間ってのは何年かごとのスパンで変わっていくわけじゃん。むしろ10年経っても同じこと考えてるほうがバカじゃんよ。

そんで夢を実現するには、そのための仕組みを自分で考えていくのが面白えの。俺がガキの頃は、友達と遊ぶにしても、何もない中でどうや





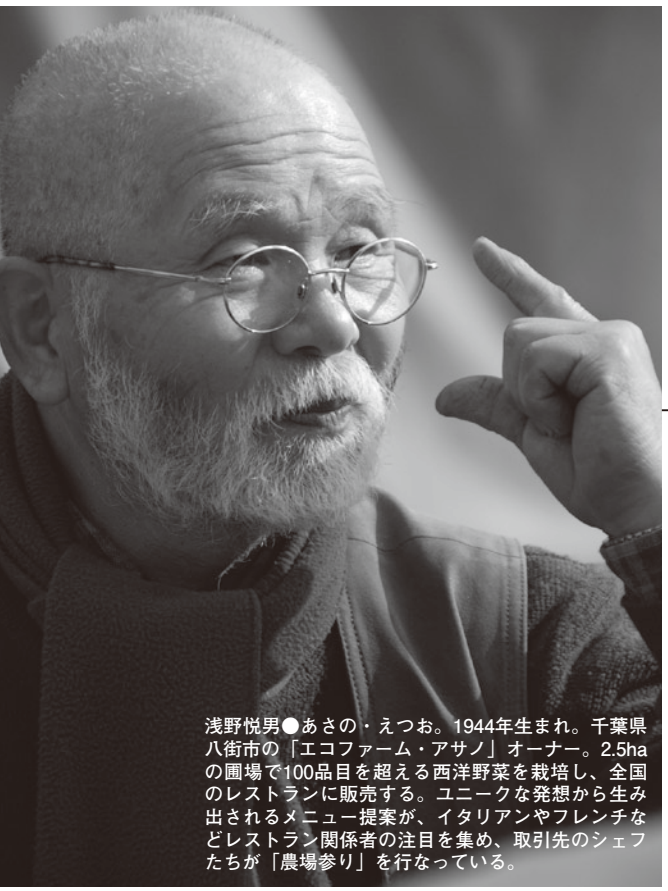


「ミシュランガイド東京・横浜・鎌倉2011」にて、エコファーム・アサノの取引先３店舗が星を獲得した。浅野氏の野菜がどのようなメニューとなって提供されているか関心のある方は、これらの店を利用してみるといいだろう。

■表参道『Restaurant-I（アイ）』フレンチ
http://www.restaurant-i.jp/
■神保町『傳（でん）』和食
http://www.jimbocho-den.jp/
■神保町『蘭奢待（らんじゃたい）』比内地鶏の焼鳥
http://www.ranjatai.com/

なお、エコファーム・アサノの野菜は、合同会社GOENが窓口となって取り扱っている。卸についてのお問い合わせは同社の今村太一氏（TEL：0475-77-8004）まで。

■エコファーム・アサノ　オフィシャルブログ
http://ameblo.jp/ecofarm-asano/



浅野悦男●あさの・えつお。1944年生まれ。千葉県八街市の「エコファーム・アサノ」オーナー。2.5haの圃場で100品目を超える西洋野菜を栽培し、全国のレストランに販売する。ユニークな発想から生み出されるメニュー提案が、イタリアンやフレンチなどレストラン関係者の注目を集め、取引先のシェフたちが「農場参り」を行なっている。

Etsuo Asano's Creative

って楽しむか、いつも考えながら工夫したもんよ。たとえば敵味方にわかれて戦争ごっこをやろうとすると、武器が必要になるじゃん。だから刀が好きな奴は刀の形のものを作って、鉄砲が好きな奴は竹を伐ってそれらしいものを作るわけ。そんで戦争はゆっくりやってたんじゃ負けちゃうから、弾代わりのスギの球果を口の中に入れておいて、パーンって撃ったら、口からすぐに次の弾を出して装填するの。そうやって戦う道具も戦い方も、全部自分たちで工夫して楽しんでたんだよ。農業だって同じじゃん。今のテレビゲームみたいに人の作った仕組みに乗っかってるだけじゃ、楽しいことなんて見つけられねえよ。いかに想像力を働かせて、夢を実現するための仕組みを開発するかってことが大事なのよ。

町工場のカリスマで有名な岡野工業の社長さんだって言ってるじゃん。「俺は差し押さえを食らおうが、何されようが、恐れるものは何もない。俺のノウハウは全部頭の中に入ってる」って。つまり発想だけは第三者の思うようにはならねえし、永遠に自分のものってことじゃん。それこそが最大の経営資源じゃんよ。これからの農業は頭で考える「脳業」だって俺が言うのはそこよ。だから百姓やるのに体を使っちゃダメなの。それは脳業じゃなくて農作業なんだからよ。

新年を迎えて俺も67歳になるけど、頭で考える脳業には限りがねえ。これからも毎日新しいことを発想して、百姓を楽しみたいね。

【エコファーム・アサノ　心訓】

一、百姓を金のためにやっているわけじゃない。美味しい、旨いと言われる素材を創る、それが業。
一、料理人たるは、素材を知り、それを活かし、一つ上の料理を創る、それが業。
一、食する者、目で感じ、舌で味わい、脳で酔い、心で満足しなければ旨い料理には会えない、それが業。

――生涯百姓　浅野悦男

取材・構成　土井学